

## 【レポート】

様々な保育に関する研修に参加させていただいている中で、『保育ドキュメンテーション』をテーマにした講演会に出会いました。内容だけではなく、講師の方の話し方がとても魅力的で、私自身がファンになり、その先生が出している、保育ドキュメンテーションに関する書籍を何冊か購入してしまいました。そして、自分が働く園でも取り入れたいと思い、園内研修のテーマにしてはどうかと提案し、取り組んだ内容をレポートします。

# 保育ドキュメンテーションの取り組み

大分県本部／日田市職員労働組合・光岡こども園 櫻木明日香

## 1. はじめに

保育ドキュメンテーションとは、もともとイタリアのレッジョ・エミリア市から発祥した教育思想のひとつで、子どもの活動を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録するというものです。子どもの思考・探究活動を具体的に記録し、子ども自身が活動を振り返り次の活動へ生かすことを目的としています。日本では、写真などを活用して、保育の「見える化」を行い、保育の質を向上させる手法を指します。

日田市の公立園は現在4園ありますが、毎年各園でテーマを決め、園内研修を行っています。光岡こども園では、2022年度の園内研修のテーマを保育ドキュメンテーションとし、毎月クラス別に保護者向けに編集し、公開していました。2022年度のクラス編成は5歳児クラス、4・3歳児クラス、2歳児クラス、0歳児クラスでした。0歳児クラスは1人だったため、園内研修では2歳児クラスと一緒にまとめることとしました。今回は、その保育ドキュメンテーションの研修内容を取り上げ、月ごとにご紹介します。

## 2. 保育ドキュメンテーションの取り組み

### (1) 4月・5月『1日の流れ』

4月・5月は、園児も保育者もクラスに慣れることが大切です。「新しいクラスでは毎日こうするんだ」「トイレやロッカーの使い方がわかってきた!」と、子ども達が慣れてきて、生活のことを自分で頑張っている姿をカメラで捉えました。

朝の会で元気に歌う姿や、衣服の着脱、歯磨きの様子などを取り上げ、子ども達が自分でできる事を伝えたり、家庭で教える際のポイントを書き込んだりして、子どもと保護者の会話のきっかけにもつながったようです。

### (2) 6月『室内遊び』

6月は、梅雨で雨の日が多いということで、室内遊びをテーマにしました。新聞紙遊びやお気に入りの玩具で遊ぶ様子を撮りましたが、同じ新聞紙遊びでも、年齢によって遊び方が異なり、子どもの様子も様々でした。年齢が上がるにつれて、新聞紙のちぎり方が細かく、全身をダイナミックに使って遊ぶ様子が多く見られます。年齢が低いと、新聞紙を布団にしたり、洋服にしたりなど、生活に密着した内容の見立て遊びが多く見られました。

### (3) 7月『夏野菜』

5月に、クラスごとに夏野菜を植えました。それから収穫するまで、毎日子ども達と一緒に水やりや草取りなど、お世話に取り組みました。未満児クラスでは「野菜を切ってください」と給食室にお願いする可愛らしい様子がありました。以上児クラスでは、野菜スタンプに使用したり、野菜スティックを食べ「苦い！」と顔をしかめたり、「トマト嫌いだけど保育園のはおいしい」と苦手な野菜を食べられたりする様子が見られました。年長さんになると、野菜の観察画に取り組み、様々な色のクレヨンを使って、本物の野菜の色について友達同士で考察する姿もありました。

### (4) 8月『水遊び・泡遊び・泥遊び等』

プール遊びが始まり、子ども達が「今日はプールする？」と毎日楽しみにしながら登園してくる8月。職員にとっては毎年憂鬱なプール掃除も、子ども達と一緒にすると、楽しい泡遊びに変身します。一生懸命プールを磨いてくれる年長さん、全身泡だらけになり、「お腹や背中を使ってプールを洗う！」と意気込む3・4歳児さん。この時期ならではの、子ども達の解放的な姿がたくさん見られました。未満児さんは、カップに泡を入れてジュース屋さんごっこをしたり、不思議な泡をじっと観察したりしていました。

### (5) 9月『運動あそび・運動会の練習』

10月の運動会に向けて、跳び箱やダンス、リレー遊びをする子ども達の姿を捉えました。平均台やフラフープジャンプ、バルーンなど、子ども達が「楽しい！」「もっとやりたい！」という気持ちを全身で表しているのが伝わってくる写真でした。年長さんは保育園最後の運動会なので、きれいに跳び箱を飛ぶ、前転をする練習をしており、写真を見る保護者にも熱意が伝わっているようでした。運動会当日は、写真を通して「僕たちはこれだけ頑張った！」と自信をもって参加することができていた子ども達です。

### (6) 10月『外遊び』

運動会が終わり、子ども同士の関わりが深まった中で、秋の自然を感じながら戸外遊びをする様子を、写真に収めました。園庭にある桜の木の落ち葉を拾い友達と比べたり、カマキリなどの秋の虫を、友達と協力して捕まえたりと、1人遊びが少し減り、友達との関わりが増えたように感じました。また、鉄棒やブランコなど、入園・進級当初はうまくできなかった遊びも、この頃にはすっかり上達し、遊びこなせるようになっており、写真を通して子どもの成長に気づかされました。

### (7) 11月『秋』

11月には、園児全員で行く「秋探し遠足」や、園庭の畑で育てたサツマイモの収穫など、秋ならではのイベントがたくさんありました。遠足ではネイチャーゲームに取り組み、初めてのゲームに子ども達は大盛り上がり。サツマイモの収穫でも1人3つ以上のサツマイモを掘り起こすことができ、全力の笑顔や、「先生、見て！」の場面をたくさん写真に撮ることができました。

光岡こども園の年長さんは、小学校進級に向け、この時期からお昼寝が無くなります。その時間を利用し、この月には年長さんだけのお楽しみ会がありました。自分たちだけの特別なイベントでの子ども達の姿は、どの写真を見ても、とても輝いていました。保育者にとっては、2023年へ向けての反省の資料となりました。

### (8) 12月『衣服（衣装・エプロン等）』

光岡こども園のお遊戯会は、12月にあります。この月は、お遊戯会の衣装を通して、劇の役になりきったり、ごっこ遊びに発展したりする姿が多く見られました。また、寒さの到来で厚着になり、防寒着などの衣服の着脱の機会が増えました。子ども達にとって、衣服の始末と向き合う時間が多い月にな

りました。すっかり写真慣れした子ども達の中には、保育者にカメラを向けられると、張り切って綺麗に服をたたもうとする、ほほえましい姿もありました。

### (9) 1月『お正月遊び』

新たな年を迎え、凧揚げや福笑い、こま回しなどのお正月遊びを楽しむ子ども達。未満児クラスは、凧を引きずりながら一生懸命走ったり、完成した福笑いを見て友達同士で笑い合ったりしていました。以上児クラスでは、すごろくやかるたに挑戦しました。遊びの中でひらがなを覚えようと、札を真剣に見つめる姿が写真に残っています。年長さんになると、少し難しいダイヤ凧を作りました。河川敷に行つて凧揚げをしましたが、くるくると暴れながら高く上がっていく様子に大興奮の子ども達。「先生、もう一回やるから、上がったら写真撮って！」と何度も挑戦していました。

### (10) 2月『冬』

日田市の冬は厳しく、地域によっては毎年雪が積もります。この年は光岡こども園でも雪が積もり、園児みんなで力を合わせて雪だるまをたくさん作りました。未満児クラスは、身体も小さく雪が積もった園庭を歩くのがやつの様子でしたが、砂場遊びの玩具で「かき氷屋さんだよ」「雪のおにぎりどうぞ」と、見立て遊びを楽しむことができていました。手を温めるためのお湯を、バケツに入れていくつか置いておいたのですが、何度も温まりに来る未満児さんの姿もとても可愛らしかったです。

### (11) 3月『僕の私のお気に入りの遊び』

年度末のテーマは、様々な経験をしてきた子ども達にとって、その当時どのような遊びが魅力的に映っているのか知りたいと思い設定しました。未満児クラスでは、すっかり上手になった2人乗りの3輪車や、友達同士でお店屋さんとお客さんに分かれてのままごと、異年齢で遊ぶ砂山作りなどが写真に残っていました。以上児クラスでは、フラフープやホッピングなどに挑戦したり、年長児がする遊びを真似る3・4歳児の姿、クラス全員で誘い合つて鬼ごっこをする様子などがあり、子ども同士の縦のつながりや、難しいことにも挑戦できる力の育ちを感じられました。また、年長児クラスでは、「好きな遊びランキング」を決めるなど、話し合いをする力の育ちも感じる事ができました。

## 3. 今後の課題と取り組み

現在、日田市の公立園では、専用アプリの導入を行い、欠席・遅刻連絡、災害時のお迎え連絡、感染症発生時の連絡等に利用しています。光岡こども園では、2023年度からアプリを通しての写真販売を始める予定です。保育園での子ども達の日々の姿を写真に撮り、販売するようにしていますが、ここで、保育ドキュメンテーションの取り組みにより得た、子どもがよりいきいきとしている場面、子どもの成長が見られるかもしれない場面の推測が、役立てられるのではないかと思います。

## 4. おわりに

保育ドキュメンテーションの取り組みを通して、子どもの育ちや保育の振り返りを、様々な視点で行うことの大切さを学びました。また、日々の保育実践記録や個人記録だけでなく、写真や動画を利用することで、子ども一人ひとりの育ちを多角的に見ることができるということを実感しました。保育ドキュメンテーションの園内研修は終わりましたが、保育計画・記録等のICT化も踏まえて、今後も日々の保育の中で写真を撮り、子ども達の育ちを見つけていきたいと思っています。また、保護者との子どもの育ちの共有、子育て支援の一環として、保育園での子どもの姿を共有することは、今後、より一層求められていくのではないかと思います。アプリでの写真販売だけでなく、クラスだよりなどを通して、実践していければと思います。